

研究主題

児童生徒による学習評価の充実

—児童生徒が学びを実感し、学びをつなげる自立活動の授業づくりを通して—

(2年次/2年計画)

1 児童生徒の実態

今年度の道川分教室には、小学部1名、高等部3名の計4名が在籍している。独立行政法人国立病院機構あきた病院に入院している児童生徒を対象に訪問教育を行っている。

児童生徒は、脳性まひ等に起因する重度の肢体不自由と知的障害を有しており、日常生活全般において医療的ケアや生活支援を必要としているが、いろいろな思いをもち、周囲からの働き掛けに心を動かしている。しかしながら、その表出は微細で受け取る側の教師も読み取りに難しさを感じる人が多い。

2 1年次(令和2年度)の成果と課題

(1) 成果

映像記録で共有する客観的な評価

担任だけでなく多角的な視点で微細な表情や身体の動き、つぶやきを教師が読み取り、より客観的な評価として活用することができた。また、映像記録を基にねらいや指導内容の妥当性を検証し授業改善を図ったことで、児童生徒が学びを実感し達成感を表している姿をチームで共有することができた。

評価のポイントが一目で分かる学習評価記録用紙

チームで児童生徒の学習評価基準をより具体化し、ねらいを達成させる手立てを明確にして、目指す達成感を表す姿を引き出すことができた。略案と本時のねらいに対する評価基準(4段階)、生徒の様子、改善点等を一目で見て分かる学習評価記録用紙を作成し、実践を積み重ねたことで、生徒の変容となる手掛かりに気付きやすくなり、客観的な記録としても活用できた。

エピソード記録の活用

学習評価記録用紙や日々の記録から変容の手掛かりを見付け、エピソード記録で考察を複数の眼で行うことで、児童生徒の気持ちに寄り添い、思いを読み取るためのツールとして有効だった。

(2) 課題

児童生徒一人一人にとって学びを実感できるための学習評価の在り方

児童生徒が自身の頑張りや課題の達成を実感する多くは、即時評価や集団の中での称賛であった。児童生徒一人一人にとって分かりやすく実感がもてる学習評価の在り方をチームで確認し、積み重ねていく必要がある。

客観的な評価のためのツールの充実

学習評価記録用紙やエピソード記録は、児童生徒の実態や指導形態によって活用しやすい様式になるよう、より客観性のある評価ツールへと改善を図る。

3 目指す児童生徒の姿(2年次)と研究の方向性

昨年度は自分なりに周囲の状況が分かり働き掛けを受け止め、表情や発声、身体の動き等で達成感を味わうことが個々の満足感や次の学びへの意欲につながると考え、その姿を目指した。今年度は昨

年度の成果と課題を踏まえた継続と発展をさせていく。具体的には、チームで児童生徒に今指導すべき課題を明確にした授業づくりを行う。さらに、次の学びや生活に生かせる目標設定と振り返りの機会、学習評価の在り方を検討し、学習評価の充実に向けた実践を積み重ねる必要があると考える。

「道川分教室における児童生徒による学習評価」とは
 児童生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことは難しい実態であるが、児童生徒が学びを実感し、達成感を表す姿を児童生徒自身の評価と捉えていく。

4 研究仮説

自立活動の個別学習において、チームで検討し多角的な視点で実態把握をすることで児童生徒の目標の妥当性が高まり、授業改善を積み重ねることで児童生徒の学びの実感や達成感を高めることができるのではないか。そして授業づくり検討会で児童生徒の変容を定期的に検討し、指導計画等の見直しを図ることで学びをつなげていくことができるのではないかと考える。

5 内容と方法

(1) 授業づくり

「授業づくり検討会」において、以下の取組をチーム（全職員）で行う。

①「アセスメントチェックリスト」と「流れ図」を活用した実態把握

- ・「重度・重複障害児のアセスメントチェックリスト」と「自立活動の流れ図」により中心課題を導き、年間目標、指導計画・内容を設定する。
- ・昨年度の中心的な課題を踏まえ、今年度の課題を整理し、整合性を図る。

②「道川授業デザインシート」を活用した題材づくりと「学習評価記録用紙」を活用した評価

- ・授業デザインシートを活用し、個別の指導計画等に基づく題材計画を検討する。また、題材終了時の改善点を次題材検討用のシートに反映させ、題材間で学習や指導・支援内容のつながりをもたせる（「道川授業デザインシート」について p68 資料1 参照）。
- ・「学びを実感し、達成感を表す姿」を基に学習評価基準を設け、本時のねらいと手立ての有効性について分析し、評価する。

③映像及びエピソード記録等の活用による授業改善

- ・映像記録 → 動画で日々の指導を記録し、評価と改善を図る。
- ・エピソード記録 → 達成感を表す姿やつぶやき、表情等から思いを読み取り、考察する。

④授業研究会

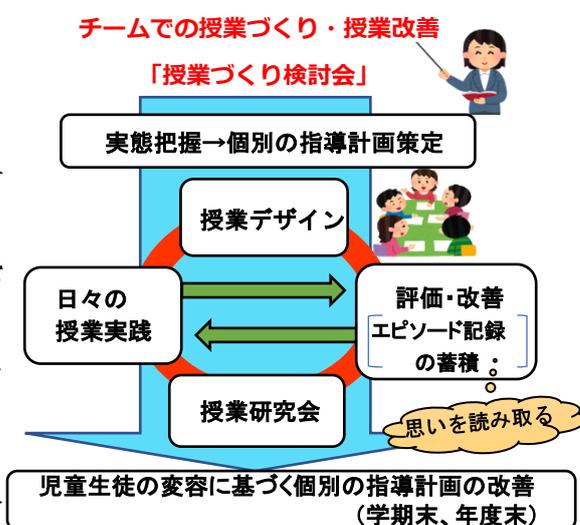
- ・個別学習の授業提示及び研究協議を通して、研究主題に沿った授業づくりや授業改善を図る。

⑤児童生徒の変容に基づく個別の指導計画の改善

- ・授業実践による児童生徒の変容を基に、指導目標等を見直し個別の指導計画を修正、改善する。
- ・改善した個別の指導計画を次学期、次年度へ引継ぎ、学びの履歴として活用する。

(2) 研修

日々の授業改善や専門性の向上に生かすための研修を行う。



【図1】 授業づくりの流れ

6 研究計画 ※p76 資料4参照

7 研究の実際

(1) 授業づくり

①チーム（全職員）での授業づくり検討会の実施

全児童生徒（4名）について授業づくり検討会を実施した。年間を通して、図1「授業づくりの流れ」により、チームで検討しながら授業づくりを行った（年間計画についてp64資料4参照）。また、小学部6年A児を研究対象事例として取り上げ、研究主題に沿った授業研究会を実施した。

②授業構想や学習評価に係るツールの作成と活用

授業づくりのツールとして、「道川授業デザインシート」及び「学習評価記録用紙」を活用し、授業デザインや評価について検討した。検討の視点が整理され、活発な意見交換につながった。

道川授業デザインシートの作成と活用 ※p68 資料1参照

流れ図や個別の指導計画に基づき、個々の実態に応じた題材計画の立案につなげた。また、本分教室で大切にしている「児童生徒が主体的に活動するための分かりやすい状況づくりである4つの観点『言葉掛け』『姿勢づくり』『教材・教具の工夫』『授業展開』」についても検討し、学びを実感し、達成感を味わえる授業実践につなげた。

学習評価記録用紙の作成と活用 ※p69-70 資料2・3参照

昨年度の課題を踏まえ、より児童生徒の実態や指導形態に応じた評価ができるよう、新たな様式を検討し、いずれかを選択して活用できるようにした。学習評価記録用紙Aは、昨年度活用した様式で、本時のねらいにおける評価基準（4段階）と自由記述によるものである。学習記録用紙Bは、表出等が微細な児童生徒の評価に活用しやすいように、題材づくりの段階で設定する「達成感を表す姿」を評価基準とし、自由記述と併せて評価するものとした（研究対象事例で活用）。

③分教室授業研究会の実施

研究対象事例の提示授業（自立活動〈個別学習〉）について、チームで題材の構想について検討した。授業研究会は本校を会場に実施し、本校職員の参加も得ることで多様な改善の視点が出され、活発に協議を行うことができた。（詳細はp71～73参照）。

- ・期 日：令和3年11月4日（事前授業研究会：令和3年10月20日）
- ・指導助言：本校 教諭（兼）教育専門監 桐田 明日子

この他に、他生徒についてミニ授業研究会を実施した。授業の様子をビデオで参観し合い、指導主事や研修会講師からの助言等を踏まえて支援等を検討し、日常の授業に反映させた。

(2) 研修

以下の研修を実施し、研究推進、授業改善、専門性の向上につなげるようにした。

①外部講師による「重度・重複障害児の学習評価」に関する研修

- ・期日：令和3年9月27日
- ・内容：講話「重度・重複障害児の学習評価について～発達理解に基づいた指導と評価～」
- ・講師：秋田きらり支援学校 教諭（兼）教育専門監 二階堂 悟 氏

②分教室職員が講師による研修（クォーター研修）

- ・「インリアルアプローチ」「ICT機器の活用」等に関する内容

①では、講話と併せ授業への助言もしていただき、授業改善の視点も得ることができた。

<資料1>

道川授業デザインシート [個別学習]

学部	学年	児童生徒氏名	指導者氏名
部	年		

～興味・関心～ ～できること～	～授業づくり検討会より～ <div style="border: 2px solid #003366; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #003366; color: white; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 前の題材の改善点や 指導助言を記入 </div>	～健康面等の配慮点～
------------------------	--	------------

<流れ図⑤「今指導すべき目標」（個別の指導計画年間目標）>



題材名	[期間： 月～ 月]
～目標、この題材で目指す姿～ ～指導内容～ ～手立て～ ○言葉掛け ○姿勢づくり ○教材・教具 ○授業展開 ○その他	[授業づくり検討会Vのビデオを受けた改善点] ○言葉掛け（相手に伝わる状況づくり） ○姿勢づくり（取り組みやすい状況づくり） ○教材・教具の工夫（意欲の喚起） ○授業展開（見通しをもちやすい状況づくり） ○その他 <div style="border: 2px solid #003366; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #003366; color: white; width: fit-content; margin: 10px auto;"> ・ 授業の映像記録を見ながら評価するとき使用 ・ 他の欄は、授業構想時に使用 </div>

<資料2>

「学習評価記録用紙A」

児童生徒名 ○○ ○○

題材名 / お話大好き～スイミーⅡ～		日時 / 場所 / 他
本時のねらい	① 海の生き物等、好きな言葉を中心に、リズムカルに話す。	10月 4日 (月) 1階学習室
	② 教師と言葉や教材のやりとりを楽しむ。	
時間	学習活動	指導上の留意点
10:45	1 始めの挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ・始まりを意識できるよう、目線を合わせ一緒に挨拶をする。 ・見通しがもてるよう、生徒と一緒に「本」と「魚」を準備し、それを提示しながら学習について話す。 ・次々にページをめくりたいときは、「待ってね」や「もう少し聞いてくれますか」と伝え、様子を見る。 ・活動の区切りが分かるように、教材を片付ける。 ・釣りの仕掛けを指さす等、やりたい気持ちを表したら、頭文字の「も」を示し、一緒に「もう1回」と話し、ひもを手渡す。 ・気持ちが向きにくい場合は「一緒にやりますか」と確認する。
10:47	2 準備	
10:50	3 今日の学習	
10:55	4 お話を読もう	
11:08	5 片付け	
11:10	6 魚釣りゲーム	
11:25	7 振り返り	
11:27	8 片付け	
11:29	9 終わりの挨拶	
		準備物
		本魚(大・小) キーボード 魚釣りセット スロープ ホワイトボード

学習評価(ねらい①) ※学習評価～学習活動を実感し達成感を表す姿

評価基準	◎できた (8～10割)	○概ねできた (5～7割)	△時々できた (1～4割)	×できなかった (0)	9/21	9/22	9/30	10/1	10/4
児童生徒	◎ 「大きな魚を追い出した」等、文末以外の言葉を話す。				/	◎	◎	○	◎
	○ 好きな言葉(生き物等)や文末を中心に話す。				【備考】 ・9/21は、好きな場面をピックアップして読んだ。 ・10/1は調子が悪いながらも、意欲的に話す場面があり、○よりは◎に近い。				
	△ 言葉を掛けると、単語を話したり相づちを打ったりする。								
	× あまり話そうとしない。または、途中でやめてしまう。								
教師	達成感を表す姿を引き出す適切な支援ができたか。				/	○	○	△	○

学習評価(ねらい②)

評価基準	◎できた (8～10割)	○概ねできた (5～7割)	△時々できた (1～4割)	×できなかった (0)	9/21	9/22	9/30	10/1	10/4
児童生徒	◎ 問い掛けに対して「やる」「もう一回」等、意思を表す。また、自分から「はい、(どうぞ)」と物を手渡す。				△	/	○	◎	◎
	○ 指差して意思を表す。また、教師と一緒に話しながら物を手渡す。				【備考】 ・9/21は、見本の魚に緊張していたので、見ることを中心にし、教材の色塗りを行った。 ・10/1は代わりの車椅子。全体的に低く、魚がテーブルに落ちてくるのはスムーズだった。				
	△ 何度か言葉を掛けると、意思を表したり、物を手渡したりする。								
	× 眠気や体調不良等、不安定で、学習に気持ちが向きにくい。								
教師	達成感を表す姿を引き出す適切な支援ができたか。				○	/	○	○	○

本時のねらいにおける評価基準

エピソード用自由記述～児童生徒の様子など	察及び改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・7月～8月末は「すいかー！」と言うことが多かった。スイミーⅡきた。 ・スイミーの歌が気に入り、歌い終わってからも部分的に口ずさんでいた。 ・月曜日の調子が良い。金曜日は週末と入浴が重なり、天気も悪いと本人が大変そう。 ・「もう1回」はノーヒントでは難しい。使う場面や意味は理解している気がする。 ・9月中旬頃から、「考えて」の言葉掛けに少し時間をおいて発言することがある。(間違えた言葉を正しく言い直せることもある。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「すいかー」が定着してきた可能性もある。 ・新しい内容は、火・金曜始まりにしないようにする。 ・継続して様子を見ていく。

<資料3>

「学習評価記録用紙B」

児童名

A

題材名 / 感じてみよう～りんご狩り⑩～

日時 / 場所 / 他

本時のねらい
 ・タブレット端末(ピアノ)を指動かして鳴らし、お話を読んで欲しいと気持ちを伝える。
 ・紐を引いて、りんごをもぎ取り、感じた気持ちを口や手、表情で表す。

11月22日(火)
2階学習室

時間	学習活動	指導上の留意点	準備物
10:45	1 はじまりの歌 2 あいさつ 3 聞いてみよう	・手をつないで、本児のペースに合わせて歌う ・微細な動きを見逃さないため、タブレット端末を使 ・めあてを伝える。 ・手の動きを待ち、お話を読む。 ・体調に合わせ、車椅子の位置取り、角度等は常 時調整する。 ・もぎ取るりんごを自分で選択できるようにさいこ ろを転がす。 ・紐を引く右手を体操等で、緊 ・頑張っていたところを伝え、	タブレット端末 絵本
11:25	4 りんご狩りしよう 5 ふりかえり 6 あいさつ		さいころ、スロープ

児童生徒が表す「姿」を評価基準とした。

学習評価

評価基準
 ◎見られた (8～10割) ○概ね見られた (5～7割) △時々見られた (1～4割) ■見られなかった (0)

達成感を表す児童の姿
 左右の口角があがる(笑顔)◎ 働き掛けに応える(口や指先を動かす)○
 目をぱちぱちする○ 手を動かす○ 口を開ける○ じっと聞いている◎
 表情がかたい■ 口や手の動きがない■ 目を見開く○
 教師の働き掛けに反応がない■ 寝てしまう■

教師の振り返り
 ①言葉掛け
 ・分かりやすい言葉でつたえよう(意味づけをもっと丁寧に)
 ②姿勢づくり
 ・「意思表示」「選ぶ」「もぎ取る」の活動が取り組みやすいように
 ③教材・教具
 ・もぎ取りやすいりんごの位置(高さ等)の工夫、動かしやすさ
 ④展開
 ・期待反応(気付き)を促す場面づくり
 ⑤その他 ・もっと働き掛けからの反応を待っても良い

道川の4つの観点に整理して、教師の振り返りを記載。

エピソード用自由記述～児童の様子など

考察及び改善点

* 久しぶりの学習室。
 明るい陽差しにうれしそう。

* はじまりの歌…握手をして歌う。
 口を動かしたり、顔を動かしたりしてはじまりの歌と一緒に歌う。

* 読み聞かせ…じっくり聞きながら、シロフォンで気持ちを表す。
 よいしょよいしょのところで、手を動かすように腕上げた。

* ゆるゆるして、りんごもってみる?と言葉を掛けると、両手を合わせる事ができた。「上手」とことばを掛けると、にやりと笑う。

* おわりのあいさつで、右手をたくさん動かしていた。

・Aさん発信で、授業が展開していく。タイミングよく、音が出るようになってきている。

・「3. 2. 1」の言葉掛けで紐を引く姿が、増えてきている。

・褒めると教師の方を向き、口をたくさん動かし「がんばったよ」といっているようだった。

(3) 授業実践 小学部 6 学年：A 自立活動(個別学習)の指導

- ①実態
- ・慢性呼吸器障害があり、人工呼吸器を使用。胃ろうから栄養摂取している。
 - ・午前中は、ストレッチャー式車椅子を使用し呼吸器を離脱し参加し、午後は、ベッドで学習している。
 - ・身近な人の声や音のする方向に顔を向け、周囲の状況を聞いている。
 - ・肘を支点にして、右手で紐を引いたり、ペン等を短時間保持したりする。

児童の中心課題(自立活動の流れ図より)

- ・興味・関心の幅を広げ、感じた気持ちを口や手の動きで表す。
- ・様々な働き掛けを受け入れ、身体をリラックスさせて活動する時間を増やす。

②授業の実際(実施時期10月～11月(週1～2時間 総時数13時間))

題材名	感じてみよう～りんご狩りをしよう～
題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・手や足で、落ち葉(折紙)やりんごの感触を感じ、口や手、表情等で感じた気持ちを表す。 ・教材のりんごや落ち葉を一人で持ったり、教師と一緒に操作したりしてりんごをもぎ取る。
指導計画	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち葉やりんごに触ってみよう ・お話「らんらんらん りんごがり」を聞こう ・りんご狩りをしよう ・おでかけしようらんらんらん「りんご狩りに行こう(バーチャル体験)」

【事前授業研究会】本時3/13

本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を指で鳴らし、お話を読んでほしいと気持ちを伝える。 ・手を動かして落ち葉に触れたり「かさかさ」の音を聞いたりして感じた気持ちを口や手、表情で表す。 	
ポイントとなる手立て、教師の役割	児童の様子	
○分かりやすいめあての伝え方	<ul style="list-style-type: none"> ・「お話を読んでほしい時は、指を動かして先生に教えてね」と言葉を掛ける。 ・指に触れ「ここね」とシンプルに伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の言葉掛けを聞き、顔を教師の方に徐々に向けた。口や指先を動かして、教師の言葉掛けに答えているような様子を見せた。教師に意識が向いていた。
○達成感につながる即時評価	<ul style="list-style-type: none"> ・お話を読み進めたり止めたりしながら、本児が「読んで」と指を動かして気持ちを伝えてくれたときは、タイミングを見て「指が動いてるね」「上手」と伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お話「らんらんらん りんごがり」を読み始めると動いていた口や腕の動きが止まった。読み聞かせを止めると「しーん」とした空気が流れたが、しばらくすると指を動かし「読んで」と伝えてくれた。
○活動しやすい姿勢づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち葉(折紙)に触れたときに、自分から手を動かすことができるように、車椅子の角度やクッション等で腕や肘の角度を細やかに調整する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・右脇にクッションを入れると肘の緊張が緩んだ。肘置きを入れると肘や手首が安定し、手を握ったり開いたりして、落ち葉(折紙)の感触や「かさかさかさ」の音を感じているようだった。
○丁寧な表情や気持ちの読み取り	<ul style="list-style-type: none"> ・反応を十分に待ち、表情が変わった時に気持ちを代弁したり、共感したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の言葉掛けをじっと聞き入ったり、それを受け止め、口や手を動かして応えたりしている様子が見られた。

<エピソード記録より>

「お話タイムはじまりはじまり」を聞き、指でタブレット端末（ピアノ）を鳴らす。鍵盤を連打。教師の読み聞かせが始まると、一瞬口や手の動きが止まったが、読み聞かせを止めると、口や手を動かしていた。「かさかさ落ち葉」のところは、繰り返しのフレーズをじっと聞いていた。「にこにこ顔の〇〇さん」というと口をパクパクさせ手を動かしていた。目もきよろきよろさせていた。「よいしょ よいしょ」のフレーズを読むと、手を上に上げた。「りんごが ごあいさつ」と言うとき口角があがり笑顔を見せた。読むのを止めると、指を動かしてタブレット端末（ピアノ）を鳴らすこともあった。

<考察>

- ・本児発信で、授業が展開していくという教師の意図が少しずつ伝わり始めたか。
- ・指を動かしてピアノの音を鳴らすと授業が次へと展開していくという事を続けていき積み重ねを期待したい。

－本時の学習評価記録用紙より－

学 習 評 価	
評価基準	◎見られた (8～10割) ○概ね見られた (5～7割) △時々見られた (1～4割) ■見られなかった (0)
達成感を表す姿	左右の口角が上がる(笑顔)◎ 働き掛けに応える(口や指先を動かす)○ 目をぱちぱちする○ 手を動かす○ 口を開ける△ じっと聞いている◎ 表情がかたい■ 口や手の動きがない■ 目を見開く△ 教師の働き掛けに反応がない■ 寝てしまう■
課題と改善策	<p><事前授業研究会の協議より></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「らんらんらん りんごがり」の読み聞かせのときは、身体に触れない方がいい。 どの刺激に対する表出か評価しにくい。 ・丁寧な関わりや、「待つ」姿勢が、めりはりのなさにつながらないようにする。 ・腕を動かす活動があるので、体操を入れてもいいのではないか。 ・「なんだろう？」と気付きを促す場面をつくってほしい。 ・「学習内容を知る」場面で、めあてを伝えるときに、頬を触りながら伝えていた。声への反応なのか、触れたことへの反応なのか、表出を強化するためのアプローチとして、刺激の精選も進めてほしい。 ・本時の評価（教師の評価）に、環境設定の評価（①ポジショニング②教材・教具について）を加えたらどうか。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>【かさかさかさ 落ち葉（折紙）だよ】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【つつつつつ りんごだよ】</p> </div> </div>

<p>本時のねらい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末（ピアノ）を指で動かして鳴らし、お話を読んでほしいと気持ち伝える。 ・ひもを引いて、りんごをもぎ取り、感じた気持ちを口や手、表情で表す。
<p>事前研究会改善策を生かした手立て等</p>	<p>児童の様子</p>
<p>○シンプルで分かりやすい刺激の精選</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「聞く」「触れる」「感じる」等の刺激を本人が受け止めやすいように、学習活動の中に一つだけ設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と一緒にもぎ取ったりりんごに触れると、冷たさやつるつるした感触を感じ取り口を動かしていた。 ・十分に刺激を感じてから「冷たいね」「つるつるだね」の教師の言葉掛けをじっと聞いていた。
<p>○気持ちに寄り添う「待つ姿勢」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境の違いに気付く、感じた気持ちや「はい・いいえ」の表出、自己選択、自分から取り組む等を微細な動きで表出するのを待ち、それを読み取り、意味付けする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習室のドアに付けた鈴の音を聞き、一瞬目を見開いた。「学習室に来たよ」の言葉掛けに口を動かして応えていた。 ・もぎ取るりんごをさいころを転がして選択した。口元や指の動きに合わせて言葉を掛けると教師の方に顔を向けた。
<p>○期待感を高めるメリハリのある活動設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お話の読み聞かせ（静）とりんご狩り（動）の活動を組み合わせ、見通しをもって主体的な授業を展開できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせを止めると、指を動かして気持ちを伝えてくれた（3回程度） ・ひもを握り、右肘をぐっと力強く曲げて一人でひもを引き、大きいりんごと小さいりんごを教師の支援なしでもぎ取った。

③授業づくりを通じた成果と課題（授業改善の視点）

< 成果 >

題材構成とねらいに迫る授業展開の工夫

- ・ゴールを見据えた流れのある題材構成と見通しや安心感につながる（学びの実感）繰り返しの授業展開
- ・「安心感」「居場所感」に加え、非日常の心揺さぶられる体験の設定

達成感につながる言葉掛けと気持ちの読み取り

- ・達成感につながる称賛（即時評価）のタイミング
- ・思いを読み取る、待つ、反応を受け止める等の教師の働き掛けと寄り添い方

支援がなくても一人で活動に取り組める工夫

- ・得意なこと、一人でできそうな学習活動の設定
- ・教科学習を意識した押さえない言葉の精選

< 課題 >

学びをつなぐ授業づくりの工夫

- ・心地よさや楽しさを感じる教材・教具の準備

場面の切り替えと五感の活用

- ・香り、重さ、感触等を体験できる多様な活動設定



【本校での授業研究会の様子】

8 まとめ

(1) 児童の変容

研究対象事例として取り上げた児童は、分教室では最も気持ちの表出等が微細な児童であるが、研究推進に係る授業づくりを通して、多くの変容が見られている。具体的には、刺激に対して口元を動かす、呼び掛けに対して顔を向けたり、聞き入ったりする、タイミングよく教具を引っ張ったり、タブレット端末を操作したりするなど、表情の豊かさや上肢・手指の動きの活発さが見られるようになった。

道川分教室の研究推進の柱である「授業づくり検討会」を通して児童理解が進み、個に応じた効果的な支援等を多様な視点で検討・提案できたことが、児童の変容につながった要因と考える。

(2) 学びを実感し、学びをつなげる自立活動の授業づくりのポイント

授業デザイン（題材づくり）

道川授業デザインシートの活用により、児童の実態に応じた題材を構想することができ、児童の変容につながった。個別の指導計画等を踏まえ、個々の実態に応じた授業のデザインが必要である。

道川授業デザインシートは、新たな題材を検討する際にも活用した。前題材の目指す姿を踏まえることで、学びをステップアップさせる視点でつなげることができた。変容に基づく題材づくりを大切にしていきたい。

題材計画は、体験的な活動を題材のゴールに据え、そこに向けて関連する一連の活動を展開していくという、流れのある計画とした。このことで児童の意欲が喚起され、変容に見られる多様な表出につながったと考える。単なる繰り返しでない、流れのある題材計画を大切にしていきたい。

個に応じた学習評価

今年度活用した学習評価用紙Bにより、達成感を表す姿を評価基準にすることで、実態に即した具体的な到達状況を明確にしなが、授業を展開することができた。また、学習活動の中で、評価基準に基づく即時評価にもつながり、児童へ学びをフィードバックさせることができた。

学習評価用紙Bを活用して、チームでエピソード記録を分析し、児童の内面の考察にも努めた。評価基準と併せて総合的に評価し、目標の達成度や教師の支援の改善点を見出すことができた。

個別の指導計画の改善

個別の指導計画は、当初の仮説に基づいて立てた見通しである。学習評価に基づく学習状況や指導の結果に基づいて修正を図り、より実態に即した適切な計画に改善することが必要である。今回、児童の変容を基に年間指導目標を修正した。このことで、児童の実態に応じた学習活動の展開、効果的な支援等の実施につながった。自立活動の授業づくりにおける個別の指導計画への立ち返りを大切にしていきたい。

(3) 道川分教室における学習評価の充実に向けて

チームでの計画的な授業づくりにより、「学習内容」や「学習状況」がつながり、児童が学びを実感し、達成感を表す姿に結び付けることができた。個々の学びの履歴や学び方が異なることを前提として、個を多角的に評価する体制やシステムを機能させていくことが、学習評価の充実に向けて大切な視点である。

本分教室は自立活動を主とした指導を行っているが、各教科等との関連に着目しながら指導目標等

を検証する体制はまだ途上にある。各教科等の資質・能力を支える自立活動の意義を共通理解し、体系的な指導・評価ができる体制づくりについて検討したい。

9 おわりに

今年度、20 回を超える授業づくり検討会を行い、全児童生徒の授業づくりを全職員で行ってきた。職員数 6 名という小規模校のメリットを最大限生かした取組である。このことで、児童生徒一人一人について同じ視点で理解を深め、有効な支援等を提案し合い、ワンチームでそれぞれの個別学習を支えた。

授業づくり検討会は、道川分教室の授業改善の原動力である。次年度もチームでの授業づくりを大切にし、児童生徒の確かな成長を支えていきたい。

<参考・引用文献>

- ・特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 文部科学省 平成 29 年 4 月
- ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編 文部科学省 平成 30 年 3 月
- ・特別支援学校自立活動ガイド 秋田県教育庁特別支援教育課 令和 2 年 3 月
- ・令和 2 年度 研究ゆり 第 22 号 秋田県立ゆり支援学校 令和 3 年 3 月
- ・平成 28 年度 研究ゆり 第 17 号 秋田県立ゆり支援学校 平成 28 年 3 月
- ・自立活動実践セミナー 2021 資料 筑波大学附属桐ヶ丘特別支援学校 令和 3 年 8 月 28 日
「新学習指導要領における自立活動の指導について」
(文部科学省 初等中等教育局 特別支援教育課特別支援教育調査官 菅野和彦)
- ・令和 3 年度 秋田県立ゆり支援学校道川分教室研修会資料 (令和 3 年 9 月 27 日)
「重度・重複障害児の学習評価について～発達の理解に基づいた指導と評価～」
- ・重度・重複障害児のアセスメントチェックリストー認知・コミュニケーションを中心にーver. 5.0
(広島県立福山特別支援学校)

<資料4> 道川分教室研究計画

☆：クォーター研修会

主 な 活 動 内 容				
月	研 究 会	授業づくり検討会・授業研究会	研 修 会	そ の 他
4	○分教室研究会①(26) ・今年度の研究の進め方について			
5	○分教室研究会②(24) ・研究概要の確認	○授業づくり検討会Ⅰ(6～13) ・アセスメントメントチェックリストによる実態把握 ・教育的ニーズ、流れ図による課題の検討 ・題材目標、指導内容の検討(題材計画) ○授業づくり検討会Ⅱ(24～7) ・計画訪問指導案検討		
6			☆クォーター研修会 「教師の働き掛けについて」 (全3回)	・指導主事計画訪問(18)
7		○授業づくり検討会Ⅲ ・指導主事計画訪問の成果と課題の確認 ・1学期の成果と課題 ・2学期に向けての改善点	↓	
8		○授業づくり検討会Ⅳ ・授業研究会に向けて	・教育課程研修会(3) ・「重度・重複障害児の学習評価」	・県央地区病弱教育研修会(3) *秋田きらり支援学校 主催
9	○分教室研究会③(30) ・前期の成果と課題の共通理解、後期に向けた授業改善	○授業づくり検討会Ⅴ ・校内授業研究会①②の提示授業に係る事前検討 ○校内授業研究会①②		
10		○授業づくり検討会Ⅵ ・校内授業研究会③の提示授業に係る事前検討 ○校内授業研究会③	☆オンライン研修「障害のある児童生徒に対する指導と評価」	・訪問担当教員研修会：後期(8)
11		○授業づくり検討会Ⅶ ・校内授業研究会④の提示授業に係る事前検討 ○校内授業研究会④	☆「教育課程について」	
12	○分教室研究会④(14) ・研究の評価及び課題の整理	○授業づくり検討会Ⅶ ・2学期の成果と課題 ・3学期に向けての改善点		
1	○分教室研究会⑤(27) ・研究のまとめと研究紀要作成に向けて		☆「ICT機器研修(情報部)」 ・教材・教具研修会(県立大)	・病弱教育研修会(8) *秋田きらり支援学校 主催
2		○授業づくり検討会Ⅷ ・児童生徒の変容の確認、来年度の課題に係る検討	・研修報告会	
3	○分教室研究会⑥(15) ・研究のまとめと次年度の研究に向けて			